

I 教育理念

トリニティカレッジでは、医療福祉の原点である愛と奉仕の精神を基本として、少子高齢化社会において求められる保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成を目指している。

学校名の“トリニティ”は本校で学ぶ「保健」「医療」「福祉」の三位一体を象徴している。

日本語学科は、日本の高等教育機関（大学・専門学校等）に入学を希望する外国人留学生に対して、日本語教育及び高等教育を受けるために必要な基礎科目の教育を行い、併せて国際交流・国際社会に貢献する人材を育成することを目指している。

II 3つのポリシー

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本校では、学則で定める修業年限以上在籍し、各学科所定の単位を修得するとともに、教育理念に基づいた以下のような力を身につけた者に対して、卒業を認定する。また、本校設置の課程のうち修業年限が2年以上かつ総授業時数1,700時間以上の学科を修了した者には、その課程の専門士の称号を授与する。

- 1) 医療・福祉・保育の現場で必要とされる実践的・専門的能力を身に付ける。
- 2) 社会的・職業的自立に必要な能力や態度を身に付ける。
- 3) 豊かな心（他人を思いやる心や献身的な心 など）を身に付ける。

<介護福祉学科>

- 1) 介護を必要とする方々に関わるために、介護福祉士として必要な専門的知識と技能を身に付ける。
- 2) 多職種連携や地域連携、個別援助計画を実践していくための思考力と実践力を身に付ける。
- 3) 自分が所属する様々なチームをマネジメントできる知識と技術を身に付ける。
- 4) 人から求められる人間性と態度を身に付ける。

<こども保育学科>

- 1) 保育・福祉における様々な課題をとらえ、現場で支援・指導するための専門的知識及び技能を身に付ける。
- 2) 保護者、地域、多職種と円滑にコミュニケーションをはかる能力を兼ね備え、保育・福祉の現場で実践できる能力を身に付ける。
- 3) 保育・福祉に携わる社会人として相応しい倫理観、使命感・責任感、やさしさと思いやりを持って行動できる。

<臨床工学科>

- 1) 医療の現場で生かせる実践力を得るために必要な基本的技術と知識を習得する。
- 2) 自発的に学習できる力を身につけ、国家試験合格に必要な知識を習得する。
- 3) 臨床現場に必要な職業倫理観とマナーを身に付ける。

<日本語学科>

- 1) 日本の高等教育機関等において、十分に勉学できるだけの日本語能力を身に付ける。
- 2) 日本社会の一員としてルールを遵守し、日本の文化・習慣を理解する。
- 3) 豊かな心（他人を思いやる心や献身的な心 など）を身に付ける。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本校では、ディプロマ・ポリシーで定めた目標を達成するために、次のような教育課程編成方針・実施方針、学修成果の評価基準に基づいて教育を行う。

・編成方針

各学科において、養成施設として定められた規則に従った教育課程を基本として、現場で必要とされる実践的・専門的能力の獲得を重視した教育課程を編成する。加えて、社会人・職業人として必要な能力や態度を養うための科目を配置する。

・実施方針

各授業は、①授業の目的・内容、②到達目標、③授業計画、④事前・事後内容の学習、⑤評価の方法・基準 等を記載した授業計画書（シラバス）に従って実施する。

・学修成果の評価基準

各授業科目において、授業計画書に記載された成績評価の方法・基準に従い評価する。成績は、A・B・C・Dの評語をもって表し、A・B・Cを合格とする。また、成績評価の客観的指標としてGPAを設定している。

<介護福祉学科>

- 1) 介護実践の軸となる専門的技術・知識を学ぶ「介護領域」、介護実践の基盤となる教養や倫理的態度を学ぶ「人間と社会の理解に関する領域」、多職種協働や介護実践の根拠を学ぶ「こころとからだのしくみに関する領域」の3領域と「医療的ケア」を学び、現場で活躍できる実践力を養うことができるカリキュラムを編成している。
- 2) 地域で暮らす人々と関わりを通して多職種連携や地域連携など、介護福祉士が担う地域での役割を学ぶ。また、チームの一員として働くためのリーダーシップやフォロアー

シップ力を実践できる学生を育成する等、地域で福祉・介護を展開していくための幅広い教育を行う。

- 3) 人間らしい生き方や幸せとは何かについて幅広い観点から学び、学生主体の活動を通して、相手を思うことのできる豊かな人間性を育む等、人間性豊かな人材を育成する教育を行う。
- 4) 介護福祉士資格を取得するために必要な基本的知識を学ぶとともに、国家試験への取り組みを通じて自発的に学習する態度を育成する。

<こども保育学科>

- 1) 幼稚園教諭二種免許状、保育士資格を取得するための共通教育科目と専門的知識、実践的技術を修得するための専門教育科目によってカリキュラムを編成している。また、在学時の学びが履修にとどまらず、深く学ぼうとする力を養うための本校独自科目を配置する。
- 2) 幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を取得するための科目を保育実習・教育実習における実践と関連づけて学べるよう配置する。
- 3) 「基礎分野」「専門分野」は学年毎に段階的に学修する。また、「本学開講科目」は保育現場で直面する様々な問題を解決する力を修得するための演習科目の充実や地域との交流事業に積極的に関わるプログラムを編成した内容で実施する。
- 4) 保育者として必要なコミュニケーション能力、リーダーシップ能力、協働力など実践力を培うために、現場実践者による講義や実技指導、ボランティア活動への参加、子育て支援事業への参加を行う。
- 5) 学びの視覚化と評価のために、履修カルテを活用して学修の目標設定と振り返りを行い、学修の改善に努める。

<臨床工学科>

- 1) 1年次に学ぶ基礎分野から連携して、2年次、3年次に専門基礎分野、専門分野を体系的に編成し、講義、演習、実習、臨床実習を適切に組み合わせた授業を実施する。
- 2) 基礎分野では、学習を展開していく基盤となる数学、物理学、化学の基礎学力の向上と、医療技術者として必要な職業倫理観、コミュニケーション、ビジネスマナーなどの人間力を養成するための科目を配置する。
- 3) 専門基礎科目では、臨床現場に必要な工学基礎知識・技能の習得と、人体の構造や病理といった基礎的な医学知識の習得に関連する科目を配置し、より発展的・応用的な専門分野の学修へつなげる。
- 4) 専門科目では、臨床工学技士の業務に関連する医療機器、安全管理、医学などの科目を中心に配置し、講義、実習等を通じて医療行為等に必要実践的な能力・知識を学修する。また、医療機関で実施する臨床実習を通じて臨床現場に必要な基本的な能力を習

得する。

- 5) カリキュラムを通じて、基本的な医療・工学の知識と技術、職業倫理観とマナーを身につけ、臨床現場で有用となる能力を醸成するとともに、医工学系の資格取得、国家試験への取り組みを通じて自発的・応用的な自己研鑽に取り組める学習能力を育成する。

<日本語学科>

- 1) 言語行動（「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能）と言語知識（「語彙」「文法」）を体系的に習得することができるカリキュラム編成をしている。
- 2) 日本語能力試験や日本留学試験などの試験に合格するために、試験の種類や個人のレベルに合わせた授業を展開する。
- 3) 学外活動（平和学習、工場見学等）や他学科との合同行事への参加を通して、日本文化や習慣を理解し、豊かな心を育むための教育を行う。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

本校では、教育理念に基づいた以下のような入学者を求める。

- 1) 専門職に求められる専門性と実践力を身につけようとする熱意と意欲がある者
- 2) 医療・福祉・保育の業界に貢献するという夢や目標のある者
- 3) 積極的に資格取得に挑戦するという前向きな姿勢をもつ者
- 4) 他人を思いやる心や人の役に立ちたいという気持ちが強い者

以 上